

## 交通死亡事故率の予測因子としての殺人率

Sivak, M., *Traffic Injury Prevention*, 2009, vol. 10, pp. 511-512

### Abstract

背景: 米国における走行距離ごとの交通死亡事故率は州によって大きく異なり、最大2.9倍の開きがある。本研究ではこの変動性に関連する要因を調査した。

方法: 2006年の州データに基づき重回帰分析を行った。従属変数は走行距離ごとの死亡事故率で、10個の独立変数について分析した。

結果: 分析により次に示す7つの統計上の重要な因子を特定した。殺人率(攻撃性の代替)、医者的人数、シートベルト着用率、男性ドライバーの割合、64歳以上の高齢ドライバーの割合、収入、アルコール摂取による肝不全が原因の死者数(酒気帯び運転率の代替)。これら7つの因子が交通死亡事故率の分散を71%説明した。交通死亡事故率を予測する最も強い指標は殺人率であった。

結論: 人間の相互作用の社会的側面が交通安全に対し重要な役割を果たすかもしれない。

**Keywords:** 交通安全, 死亡事故率, 州ごとの変動